

野生動物から田畑を守る！

～ 鳥獣害対策のための意識改革 ～

埼玉県農業技術研究センター
生産環境・安全管理研究担当
鳥獣害防除研究 古谷益朗

1 野生動物はなぜ人里へ

楽な生活を求めてきたら結果的にこうなった！

- ・ 食べ物 人里には豊富な食べ物がある
- ・ 安心、安全 隠れる場所が多く存在し、人の圧力がない

※ 食べ物が農作物だから問題化！どちらが欠けても動物は出てこない！

2 なぜ問題化するのか

原因があるから被害は起きる → 原因は何か？

原因がわからなければ対処ができない！

- ・ 環境の変化 人工林の増加、開発などは原因ではない。そこに住む人たちの生活が変わったことが大きい。
- ・ 餌の減少 山に餌が少ないことはない。ドングリが豊作でもサルの畑への出没状況は変わらない。
- ・ 環境への適応 知らず知らずのうちに餌付けていた。楽に餌が食べられる場所は動物にとっては魅力的な場所。
- ・ 個体数増加 腹一杯食えれば栄養状態も良くなる。

3 被害対策の考え方

動物は食べるために集落に出てくる。そして安全な場所であれば繰り返し餌場として利用する → 被害地域は餌場となっている事実を受け止める。

- ・ 食 餌となるものを与えない
- ・ 住 安心して生活できる環境を与えない
- ・ 体 効率的な個体管理

※ 農家の目的は収穫！動物を捕ることではない！

4 効果的な対策を実施するためには

何が原因かを地域で勉強し共通認識を持って対策を実施する。

- ・ 相手を知ること 動物から学ぶ
- ・ 餌場を作らない 動物を集落へ呼び寄せる一番の原因
- ・ 隠れ場所をつくらない 餌があっても安全でなければ出没頻度は下がる
- ・ 人は「こわいもの」と認識させる みんなで実施
- ・ 追い払いは繰り返し いつもより一歩前へ
- ・ 侵入経路に有効な柵を設置 いいかげんな柵は逆効果
- ・ 相手がほんとうにイヤがることを考える 人の目線で考えてはダメ
- ・ 地域全体で実施することが望ましい 点から面へ

5 なぜ被害は減らないのか

- ・ 存在の否定
このあたりにはいない！ いるわけがない！ 対策の遅れ
- ・ 誤った情報
光が嫌い！ 音が嫌い！ 臭いが嫌い！ 費用と労力の無駄
- ・ 誤った認識
サルは仕返しをする！ 動物は頭がいい！ 慣れを生む原因
- ・ 誤った対策
捕獲中心！ ひとまかせ！ 責任転嫁

6 鳥獣害はヒューマンエラー

- ・ 思い込み
- ・ 気づきの遅れ
- ・ ひとまかせ

7 餌付けについて考える

野生動物から見ると集落内の餌は2種類しかない。(井上雅央氏から)

- ・ 食ったら人に怒られる餌 収穫前の果実、野菜等
- ・ 食っても怒られない餌 収穫後の必要としない果実、野菜等。投棄果実、野菜。放任果樹など。

※どちらを食わせても餌付けである。

8 安全な生活について

- ・ 遊休農地は動物が安心して生活できる場所 . . . 連坦は野生動物のバイパス
- ・ 空き屋、伐採木の野積みは安全な隠れ屋 . . . 畑周辺の隠れ屋は前線基地

9 農作物を守る

- ・ 野生動物の出没パターンを利用する . . . 時間や経路は同じことが多い
- ・ 野生動物は人の動きを見ている . . . 怖い人を識別
- ・ 野生動物の目線で考える 音や光、臭いの対策は人間目線
- ・ 野生動物の得意な行動を利用する 登のか？破くのか？掘るのか？
- ・ できることから実施する 発生初期に迅速な対応
- ・ 新規作物の導入、作付け時期の変更は慎重に . . . 地域の生息動物考慮
- ・ 守りやすい畑をつくる 現場を見て決める

10 野生動物から畑を守るために

- ・ 正しい情報と知識の共有 誰でもが同じ知識を
- ・ 主役は農家 主役が動物になってはダメ
- ・ 捕獲に頼らない 捕獲は必要。でも捕獲だけでは被害は減らない
- ・ 考え方の転換 動物をどうするかではなく自分の畑をどう守るか
- ・ 適切な指導、対策の手本となるリーダーの育成